

# 東郷と夢二と諏訪

## 同人誌「窓」12号発刊

### 料亭「信濃」舞台のドキュメント収録

同人誌「窓」を発行する「窓の会」(三井夏海発行人)は、小説、随筆など16作を収録した第12号を発刊した。諏訪市大手町で明治末期から昭和50年代まで栄え、現在は国登録有形文化財となっている旧料亭「信濃」を舞台に、数多くの資料や取材を基に描いた、ドキュメント「料亭信濃を訪れた画家東郷青児・竹久夢二と諏訪―素描―」も発表。旧料亭を訪れた東郷と夢二と諏訪の関わりを、50数点に及ぶ主要参考文献、関係者の取材などから探っている。

(宮坂早苗)



東郷青児や竹久夢二らが何度か訪れた旧料亭「信濃」

「料亭信濃を訪れた画家東郷青児・竹久夢二と諏訪―素描―」など16作を掲載した同人誌「窓」12号



同人誌は文筆家の故市川一雄さんが中心となって創刊。「多様性こそ生命の源」を根幹に活動し、同市出身の書道

史研究家渡部清さん(東京都)が、歴史上の人物の手紙を読み解いた「將軍秀忠逝く」など、研究分野も4作を掲載。

「画家東郷青児・竹久夢二」は、諏訪市在住の牛山一貫さんが執筆した。牛山さんは5年前、信濃の3代目女将・小池志保子さん、長女の小松まやさんを訪ね、「料亭信濃とその周辺」としてまとめ、「窓9号」に発表。以来、旧料亭と大手町の歴史についてさらに深掘りし、広範囲にわたって貴重な地域文化を記録にとどめている。今号は、創業以来、政財界や文化人など各界の多彩な著名人が訪れた信濃において、画家東郷青児(18897〜1978年)、竹久夢二(1884〜1934年)に注目。2人に焦点を当て、新たに踏査した。執筆を前に小池さんに確認を重ね、東郷に関する記述がある義姉小島初子さんが書いた「天龍残影」などを資料に、また諏訪市美術館の紹介で茅野市の五味保美術館へも複数回取材。こうした文献、聞き取りから「いずれも信濃には何回も来ていた。夢二は作家で医師の正木不如丘に伴われ、東郷は例外的に泊まってもいた」。牛山さんは、素描とした上で「東郷が諏訪に来たのは遊興というより、作品の制作が主目的。『夢二は旅行や結核の療養もあるが、やはり制作と想う』と考察している。

頒価900円。問い合わせは三井発行人(電話090・85888・0543)へ。取次書店は諏訪市の言事堂(同090・7567・0766)諏訪書店(同02666・53340)へ。